

# ようこそ 図書館へ

第21号

2017年2月  
津市図書館



## おま 内 容

P 1～P 3…手づくり絵本コンクール  
P 4……………レファレンス事例集  
P 5……………知ろう私たちの郷土



### ▲表彰式

「受賞してよかったね」

### 作品鑑賞会▶

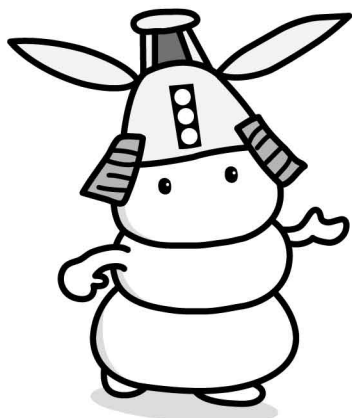
「ワクワク・ドキドキ」  
入賞作品に見入る子どもや  
審査員から作品の講評や  
アドバイスを受ける親子連れ



### 絵本審査▶

「どれを選ぶ」  
176点の力作が  
集まりました





# 津市手づくり 絵本コンクールを 実施しました!



今年度も絵本を通して子どもの読書活動を充実させ、豊かな情操を育むことを目的に、読書活動が活発なまちを創造する子ども読書活動推進事業の一環として「津市手づくり絵本コンクール」を実施しました。今年で7回目を迎える当コンクールは平成28年9月1日(木)～10月7日(金)の期間で作品を募集し、176点(こどもの部 152点、一般の部 24点)の力作が集まりました。10月21日(金)に審査員の増田喜昭氏、鈴木敬子氏、つつみあれい氏による審査会を行い、市長賞・議長賞・教育長賞(こどもの部・一般の部)各1作品ずつの合計6作品が決定しました。本に出会えるまちで賞については今回のコンクールより、市民のみなさんの投票によって決定することになりました。10月29日(土)～11月6日(日)の作品展示会にお越しいただいたみなさんに投票用紙をお渡しし、お一人1票を投じていただく形で行いました。最初は投票用紙をもらって戸惑われている方もありましたが、じっくりと作品をご覧になったあと、お気に入りの1冊に票を投じていらっしゃいました。(145票の投票により5作品が決定しました。展示会には8日間で343人の方にご来場いただきました。)

11月6日(日)には表彰式と作品鑑賞会を行ない、受賞された11人の方々の表彰と記念撮影を行いました。みなさん誇らしげな表情で写真におさまっていました。その後の作品鑑賞会では、審査委員長の増田氏から作品の講評をしていただきました。受賞者や出品者の方々はご自分の作品について直接審査員の方から解説していただけることもあり、緊張しながらも嬉しそうにお話を聞き、次の作品への参考にされているようでした。

受賞作品については、電子書籍化したものと、市長賞の2作品は製本したものを、市内各図書館や幼稚園・保育園・小・中学校へ配布する予定です。

コンクールで、子どもたちが本やお話を作ることを通して、本を読むということにも一層興味や関心を持ってくれたらと思います。

●こどもの部

津市長賞



じいちゃん ばあちゃん  
草深 希夢

津市議会議長賞



ピカッゴロッドーン!  
田嶋 誠司

津市教育委員会教育長賞



ラジコンのぼうけん  
山野 慧

●一般の部

津市長賞



もぐのぼうし  
なかにし あけみ

津市議会議長賞



うさぎと私 100年前から  
たなか まちこ

津市教育委員会教育長賞



とまらないまほう  
さかい ななみ

本に出会えるまちで賞



はたらきありさん  
奥田 至音



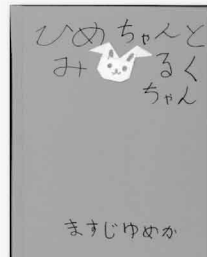
ふしぎなハンバーグ  
杉平 朔来



けんとのかいたママとパパとぼく  
前田 健斗



ペットちゃんとボトルくん  
田嶋 吉美



ひめちゃんとみるくちゃん  
増地 夢花 増地 麻子



# レファレンス事例集

Q カタツムリのフンはなぜ食べたものの色になるのか？

A カタツムリは、食べたものの色素を分解する酵素がないためとある。そのためキュウリを食べると緑色に、ニンジンを食べるとオレンジ色になって排泄される。

「カタツムリの生活」大垣内 宏/著 築地書館

Q 大里村の「大里音頭」の歌詞や譜面があれば見たい。

A 「大里村史」や祭り・民俗・わらべ歌に関する資料を見たが、それらしいものは見当たらなかった。大里小学校の校長先生が作ったらしいというお話から「大里小学校百年史」という本を見てみると、大里小学校の古い校歌と一緒に大里音頭が掲載されていた。

「大里村史」大里村 編

「大里小学校百年史」大里小学校 編



## 『行商列車〈カンカン部隊を追いかけて〉』 山本 志乃著 創元社

香良洲は漁業の町。伊勢湾で採れた魚は香良洲漁港で水揚げされ、その後は車で京阪神地区に運ばれたり、伊勢中川駅から電車で鶴橋や難波へと運ばれ消費者の元へ届けられます。

この本は鮮魚列車にスポットが当てられ詳細に書かれています。朝一番の列車内の様子や、魚の運搬に使用するカンカン箱がどのようにして作られたかを知るには究極の一冊です。

## 『ビアトリクス・ポターとかわいそうなテンジクネズミのはなし』

デボラ・ホプキンソン文 シャーロット・ヴォーク絵 石井睦美訳 BL出版

ビアトリクス・ポターは、たくさんペットを飼っている動物の大好きな女の子。特に、動物の絵を描くのが大好きで、絵を描くために、おとなりからテンジクネズミを借ります。

ところが、思いがけない出来事が起こってしまいます。ビアトリクス・ポターは、後にあの有名なピーターラビットのおはなしを書いた人です。この絵本はその才能が垣間見えるエピソードが満載です。

## 図書館員のおひ・と・り・ご・と

### 【ちゃんと聞かなきゃ】

「さいきんの本をさがしてるんですが…」

夏休みのある日、ひとりの小学生がやってきてくれました。

「こちらが新しく入った本ですよ。あなたが読むのならこちらの児童用の本がいいかな？」と案内しました。でも、何か迷っています。

「どれがいいかわからない？どんなジャンルがいいのかなあ」

「自由研究で…」

「うんうん…え？」

「小さいやつ…」

「さいきんって…ウイルスや細菌の…細菌？」

「…はい」

…日本語って難しい。そう言えば以前「武道の本」と言われて「葡萄の作り方の本」をお渡ししたことがありました。

# 知ろう私たちの郷土

有造館に関する資料 — その名も『有造館講座』 — 川上 裕子

有造館とは、津藩第10代藩主藤堂高兌たかさわの発案により造営された津の藩校（学校）である。当時の藩の財政は良くはなかったが、高兌自らが儉約に励んで10年で資金となる金額を貯め、文政3（1820）年に開校した。当時、長州（萩）の明倫館・水戸めいりんかんの弘道館こうどうと並び「三大藩学」と称されていたという。

この有造館に関しては、『津市史』などに詳しく記されている。今回は、有造館に関する資料で、当館の特殊コレクションである「橋本文庫」の『[有造館講座]』（橋L37-2）という資料について紹介しようと思う。



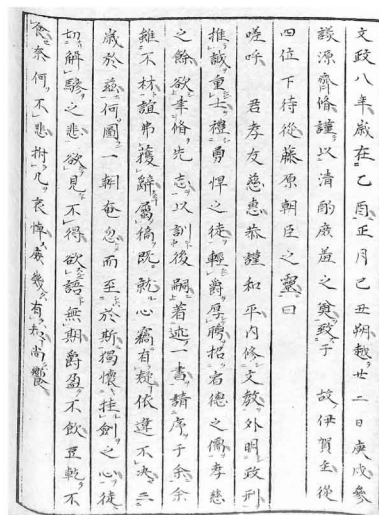
『有造館講座』表紙

これは、津藩を代表する学者であり、有造館に関わった津坂孝綽つさかや斎藤拙堂さいとうらが、有造館について書いた資料の内15点（そのほとんどが有造館から出版されたものでもある）を1冊にまとめたものである。それでは、

一体どのような資料が収録されているのかを簡単に見てみよう。

目録を見ると、有造館の扁額について記した「有造館講座 尊額記」から始まり、造営に関する「國校興造記」、藩校や講堂、寮に関する「國校學則」や「養生寮記」、伊賀上野いげじやうの崇廣堂（有造館の分校）に関する「崇廣堂記」など、有造館の建物や学則に関する資料がある。また、当時の神道論に対する藩校の立場を定めるきっかけとなった津坂孝綽の「神道辨」と土井弘の「神聖一揆説」、津坂孝綽の未刊の著作『皇和通紀』の序文である「皇和通紀序」など、有造館の学問の立場や教授陣の著作に関する資料も収録されている。他にも、「千歳山碑記并後記」という千

歳山公園に関する資料もある。藩所有の山林であった千歳山の木々を、藩校有造館を建てる際に用材として伐採し使用した後、津坂孝綽の発案で山桜や楓などを植えて藩士や町民らの憩いの場として設けたことについて記したものである。



「御祭文并御祭式」

と関わりがあった。ここでは「内文教ヲ修シ外攻刑ヲ明シ誠ヲ推テ士ヲ重ンジ…」と高兌について述べ、飲食が出来ない程悲しく「几ヲ拊テ哀悼ス」とその死を悼んでいる。高兌も徳川斎脩も有造館に深い関わりがある人物であるのでここに収録されたと思われる。

このように『[有造館講座]』には、別々に記された有造館に関する資料が収録されており、この一冊で様々なことが分かる貴重な資料となっている。

## 主な参考文献

梅原三千・西田重嗣著『津市史』一・三卷（津市 1959年・1961年）、早稲田大学日本地域文化研究所編『日本地域文化ライブラリー 4 伊勢の歴史と文化』（行人社 2009年）、「津市民文化」編集委員会編『津市民文化』第20号（津市教育委員会、1993年）、関口精一著『津市地名事典』（八雲書店 1995年）、横山高治著『伊勢の津歴史散歩』（創元社 2007年）〔他〕



# 休館日・開館時間などのご案内

※下記の休館日のほかに特別整理期間（年1回、14日以内）や、臨時に休館することがあります。詳しくは、図書館カレンダー、津市図書館ホームページなどをご覧ください。

津市図書館ホームページ及び携帯版ホームページ

<http://www.library.city.tsu.mie.jp/>



携帯電話QRコード

館名	開館時間	休館日(全館共通)
<b>津図書館</b> ☎ 229-3321 〒514-8611 西丸之内 23-1 津リージョンプラザ内	平日 9:00～19:00 土・日曜日、祝・休日 9:00～17:00	火曜日 毎月最終木曜日 年末年始（12月28日～1月4日）
<b>久居ふるさと文学館</b> ☎ 254-0011 〒514-1136 久居東鷹跡町 2-3	平日 9:00～18:00 土・日曜日、祝・休日 9:00～17:00	
<b>ポルタひさいふれあい図書室</b> ☎ 254-0464 〒514-1118 久居新町 3006 ポルタひさいふれあいセンター内	平日 10:00～21:00 土・日曜日、祝・休日 10:00～18:00	
<b>河芸図書館</b> ☎ 245-5300 〒510-0314 河芸町浜田 782	10:00～18:00	
<b>芸濃図書館</b> ☎ 265-6004 〒514-2211 芸濃町椋本 6824 津市芸濃総合文化センター内	9:00～17:00	
<b>美里図書館</b> ☎ 279-8122 〒514-2113 美里町三郷 51-3 津市美里文化センター内	9:00～17:00	
<b>安濃図書館</b> ☎ 268-5822 〒514-2326 安濃町東観音寺 418 津市サンヒルズ安濃内	10:00～18:00	
<b>きらめき図書館</b> ☎ 292-4191 〒514-0314 香良洲町 2167 津市サンデルタ香良洲内	9:00～17:00 (7・8月の平日は 18:00まで)	
<b>一志図書館</b> ☎ 295-0116 〒515-2521 一志町井関 1792 とこどもの里一志内	10:00～18:00 (7・8月の平日は 19:00まで)	
<b>うぐいす図書館</b> ☎ 262-5000 〒515-2602 白山町二本木 1139-2 津市白山総合文化センター内	平日 10:00～18:00 土・日曜日、祝・休日 9:00～17:00	
<b>美杉図書室</b> ☎ 272-8092 〒515-3421 美杉町八知 5580-2 美杉総合文化センター内	9:00～17:00	

本の返却は期限内に

ようこそ図書館へ 第21号

発行日/平成29年2月1日 編集及び発行/津市教育委員会 津市津図書館  
 三重県津市西丸之内23番1号 津リージョンプラザ内 ☎(059)229-3321